

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ジオパーク活動をしている中において、ヒスイはやはり中心な鉱物でございますし、そして、やはりその産地としては小滝川、そしてまた青海川という形の2局になって見えるわけですが、やはり冬期間は駄目といたしましても、そのほかの3シーズンつなげることが、やはり一番大切ではないかなと思っております。どういう形でいけばいいのか、いろいろ大変かとも思います。しかし、これはもうヒスイを売っていく、また、ヒスイを売り物にして、これから糸魚川の中で活用していくという形になってくると、私といたしましては、両方のヒスイ峡は結ぶことが大切かなと。そして、やはり自然を生かす中においては、いい資源を持つとりながら、それを生かせない部分が結構見受けられるわけでございますので、そういうやはりナンバーワンのものは、それなりの扱い方をしていかなくちやいけないんじゃないかなと思っておりますし、そういった結ぶ道というのは、やはり一つの大きな前進につながると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を2時35分といたします。

〈午後2時24分 休憩〉

〈午後2時35分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。〔16番 古畑浩一君登壇〕

○16番（古畑浩一君）

お疲れさまでございます。

通告書に従いまして、一般質問の大トリを取らせていただきたいと思います。

思えばね、この任期、これが最後の一般質問ということでね、本当に最後、締めさせていただきます。

たいと思います。

もう最後ということになりますとね、米田市長が5期20年、これがもう最後の一般質問の答弁となりますのでね、ひとつ頑張っていたきたいと思いますし、今日2月26日は、2.26事件の日であります。もう一つね、米田市長の誕生日でもございます。もう徹底的に今日は、やり合いたいと思いますので、遠慮なんか全然しませんのでね、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、今度の市長選挙候補の女性候補2人が並んで見てますのでね、他人事だと思わないで、自分が市長ならどう答えるかと思ひながら、ひとつ見ていただきたいと思ひます。

それでは、これより一般質問に入らせていただきます。

1、米田市政は1市2町の合併からスタートし、新市誕生、ジオパークの日本及び世界ユネスコ認定。新駅建設、北陸新幹線開業、ヒスイの国石認定など輝かしいものでした。

ですが、輝かしいスポットライトが当たる反面、暗い影も色濃く、清掃センター運行不調、それから成る水銀汚染問題、カニ販売店排斥運動に関わるカニ屋裁判敗訴、権現荘横領問題、官製談合事件等、こうした影もまた強いものがありました。この問題をどう捉えているのか。また、やり残した数々の課題にどう対応していくのか、お聞かせください。

(1) 南北駅周辺の整備をどう推進していくのか。

北のシャッター街・南の空き家街といわれ、南北駅周辺整備の必要性が論じられてまいりましたが、課題解決に向けて、特に駅南側は計画すらできず、20年来の米田市政は、全くの無策でございました。この責任をどう考えるのか。

(2) 行財政改革の推進は、図られているのか。

(3) 消滅可能性自治体への対応はどのようにするのか。

(4) 権現荘民間9,000万円つき無償譲渡の問題のその後はどうなのか。

(5) 地域医療をどのように守って行くのか。

2、市内中学校いじめ事件及び部活動の地域移行についての学校現場及び教育委員会の対応につきまして。

(1) いじめ・不登校の推移と現状、対応はどうか。

(2) タブレット紛失事件に端を発した一連のいじめ事件の概要と教育委員会、学校側の対応に係る問題について、どう責任を取るのか。

(3) タブレットやSNSを使った授業を今後どう進めていくのか。スマホ、情報AIなど、より便利に機能アップしていきませんが、反面、犯罪の温床や情報の取り方、発信の仕方など、情報リテラシーをどうするのかお聞かせください。

(4) 部活動の地域移行と学校教育としての関連はどうなるのか。

3、旧東北電力ビル解体工事入札停止と子育て支援複合施設の建設延期について。

(1) 5回に及ぶ不調の原因は何なのかを分析しているのか。

(2) 駅北子育て支援複合施設の建設延期の影響と建設費、年間維持管理費等、増額のおそれはないのか。

(3) 整備スケジュールの延期は今回で何度目なのか。また、その理由は何なのか。

(4) 延期により国の補助金もタイムリミットを超えたが、返納するのか。

(5) 計画の見直し・縮小・中止等を明言すべきではないのか。

(6) 中止にした場合、どのような損益金額になるのか、お聞かせいただきたい。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、駅北地区においては、大火からの復興まちづくりを進めてまいりました。また、北陸新幹線開業に向けた駅前広場事業や駅南地区においては、駅南線や中央大通り線等の整備を実施しており、まちづくりを取り組んでまいりました。

2点目につきましては、第4次糸魚川市行政改革大綱に基づき、継続的に進めております。

3点目につきましては、若者の定着が重要であることから、引き続き若者が生き生きと活躍できるまちづくりを進める必要があると考えております。

4点目につきましては、7年1月1日から譲与先である一般社団法人アッサンによる、日帰り温泉事業が開始しており、7年4月末の宿泊事業開始に向けて整備を進めていくと伺っております。

5点目につきましては、地域医療構想に基づく医療機関の役割分担や連携体制の構築により、持続可能な医療体制の確保に取り組んでまいります。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

3番目の1点目につきましては、今後の入札に影響することから、公表している情報以外について、お答えすることはできません。

2点目につきましては、経費上限額を示した基本協定を締結しており、その額で整備を進めることといたしております。整備年度が遅れた場合には、整備費や運営費への影響が生じるおそれがあることから、整備事業者とも適宜共有をしながら、公共工事の品質確保の促進に関する法律等にとり、適正な施設整備を進めてまいります。

3点目につきましては、基本計画のスケジュールの延期は2回目であり、解体工事の遅れ等によるものであります。

4点目につきましては、国と事前協議では、期間延長等の内諾をいただいているところであり、期間延長による補助金等の返還はありません。

5点目につきましては、現段階では考えておりません。

6点目につきましては、これまで複合施設整備に使用してきた補助金の返還が必要となり、今年度末時点で約1億3,000万円になります。

また、関連して、既存ビルの解体工事に対する補助金が受けられなくなり、周辺整備がさらに遅れることを懸念いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からも答弁がありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、いじめの認知件数は、4年度は100件、5年度は137件、6年度は1月末現在で108件であります。各学校で継続的に児童生徒の人間関係を把握したり、アンケート調査等を実施したりする中で、未然防止、早期発見、即時対応に努めております。

不登校児童生徒数は、4年度は49人、5年度は72人、6年度は1月末現在で73人です。校内及び校外適応指導教室での支援や家庭訪問等を行い、一人一人に応じた支援に努めております。

2点目につきましては、追加調査等の結果を踏まえて、適切に判断いたします。

3点目につきましては、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の情報モラル、情報リテラシーをより一層高めて指導してまいります。

4点目につきましては、地域クラブ活動は、学校外の活動であるものの、教育的意義を有する活動であり、地域クラブと学校の連携は、これまで同様、重要であると考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

それでは、2回目に入らせていただきたいと思います。

1番のあれですね、問題でございますが、結局ね、米田市長におかれましてもいろいろと、るるいいことも悪いこともたくさんありました。輝いていたこともあるしね、真っ暗闇の中にいたことも、確かにあるかと思えますよ。

その中でね、市長の責任において最もやっぱり優先的にやっておかなくちゃいけなかったのが、人口問題なんです。1市2町の合併が何のために行われたかというのは、一緒に合併協議会の途にいましたからね。やっぱりその背景には、大きな人口問題があった。これがどんどん減っていくよりも、各首長3人いらっしゃるのを1人にするとか、当時60人ぐらいいた1市2町の議員さんたちを一つの議会にして、半数にしていこうじゃないかとか、そういう動きの中で研究をやって、その背景にあるのはやはり糸魚川市の人口を何とかして、増加とまではいかななくても、そのまんまにやはりキープしていただきたいという思いだった。だから、それがここへ来て、消滅可能性自治体になりましたよね。市長、これはやはり大きな責任だと思うんですけど、市長としてはどうお考えなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに非常に私といたしましても、憂慮する点だと思っております。私も、当然この人口減少問題については、本当に第一に捉えておりまして、これに対しては、しっかり捉えていかなくちやいけない、そういった思いで取り組んでまいりました。それぞれの事業につきましても、やはりそういったところにつながるという思いでやってまいりました。

それともう一つ、今、議員ご指摘のように、この効率のいい行政運営というような形の中で、この新市になっていった部分があるわけでありますので、そういった点のメリットという中で、具体的にはやはり議員の数が減ったというのが大きな事柄であったということも、大きな我々は合併の効果だと思っておりますし、それともう一つ、そのときに、今はなかなか明確にはなっておりませんが、自らが判断し、自らが考え、自ら行動する自治体を目指すというようなところもあったかと思っております。そういったところを目指して取り組んできたわけでございますが、結果的には、議員ご指摘のように非常に残念であるわけでございますが、そのような結果になったということは、私の至らぬ点であったのではないかなと捉えている次第でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

最初に合併したときのね、副議長でございました、元副議長、青海の山田副議長だったね、よく言っていましたよね。古畑君、水たまりは、外側から干上がっていくんですよ。だから、そのことを十分肝に銘じてやっていってくださいねというのが、彼が議会を離れるとき、私に残していった言葉でした。

以来、それをずっとやってきたわけだし、米田市長、あなたは、中山間地の人口でさえ、やはり残すように、残留するように努力していくといいましたよね。最近、全く中山間地の活性化についての施策がなされてませんね。その辺はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

中山間地におきましては、一次産業の今やはり変化があるわけございまして、担い手不足という形の中、そういう中で変化が起きてることは間違いございません。

しかし、逆に農業の法人化、また、やる気のある後継者も育ってることは間違いございません。そして、好品目農産物に対して取組を切り替えたり、いろいろ努力をされておることは承知のことと思いますが、そういった、ある程度方向性なり、芽生えというのも出てまいっておるわけございまして、そういったところをこれから支援をしていって、やはりそこで定着できる形が大事かと思っております。

そのようなことで、一次産業をやはりしっかり支えていくことが大事かなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

やっぱり市長ね、20年もあったんだよ。やっぱり言ったことはやってほしかったし、やっていただくように、期待した側ですからね、でもあなたは確かにやると言った、やると言ったから応援した。やらなくなったから、別れた。やっぱり市長、そこは首長として、やっぱりしっかりとして、やっぱり反省すべきは反省。やはり次の世代、あんまり次の世代に口出すのもなんだかなと思いますけどね、しっかりやっていていただきたい。もう終わるのか、何と言っていいのか悩むけど。

それでね、もう一つが、今度、南北駅周辺の整備、これもやるやると言って、結局やらなかったですね。北のシャッター街、南の空き家街、あんまり言うなと言われてますけど周りが言ってるんだからしょうがないと、そう言ってる方もいらっしゃる。特にこの件に関しては、五十嵐部長、あなた、この3月議会までにしっかりとの方針と計画示すと、12月ぐらいに私に言いましたよね。日がないけどできますかと言ったら、やりますと言いましたよね。聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

この件につきましては、古畑議員のほうから、何度もこういう議会の場、委員会の場で激励もしくはお叱りを受けてきた内容でございます。駅南地区の、特に三反田含め駅南地区のハード的な再開発ですとか面整備の困難さについては、以前、議会等でも答弁したことがございます。現状では困難であることは、以前も答弁いたしました。

ただ一方、今回のご質問では、全くの無策というご質問、通告書でしたが、都市計画的には、かなり様々な問題に取り組んできたつもりでございます。その多くの部分が、三反田も、当然私の中では意識して、木造密集地域の防災事業ですとか、あとバリアフリーの促進方針の部分ですとか、私の先輩からやってきた駅周辺整備に加えて、私のときにもやってきたつもりでございます。ただ、古畑議員のおっしゃるような、目指しているような部分というところには達していないというのはこれは、素直にそうですというふうに言うしかございません。

ただ、先般、中央区の役員の皆様と、駅に近い利便性の高いエリアとして、ぜひ今の皆さん、あと加えては、コンパクトシティに資する皆さんの住んでいただきたい場所として、駅南地区をどういうエリアにしていくかということについて、液状化対策のその先にあるまちづくりを見据えた取組として進めていきたいということで、中央区の三役、区長さん、副区長さん、会計の方と、私を含めた職員で協議をしてみました。議員のおっしゃるシンボルロードを軸としたまちづくりの青写真、これは描くところまではできておりません。ただ、液状化被害という不幸な出来事がきっかけですが、そういうきっかけ、住んでもらうからには安全な場所をつくりたい、住んでもらいたいのはこういう地区に、市役所は考えるけど皆さんはどうですかという、そういうやり取りを始めるところから今、本当に第一歩目、取りかかりをつくった状況状態ですが、これを着実に進めてまいります。

私個人的には、この3月でこの職を離れてしまうこととなりますが、建設課ですとか、都市計画、都市政策課の職員が、同じ立ち位置を共有しておりますので、確実に進めていただけるものとして、ぜひ見守ってください。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

五十嵐部長ね、やっぱり熱というものが違うんですよ。新幹線の駅ができる前からこの問題に取り組んでいって、今いうシンボルロードと、そのときは五十嵐さんは補佐だったんですかね、松田課長がいらっしゃいまして、全体の計画等をまとめていった。ただ、その頃を知る職員なわけですよ。そして今、その課長、そして部長となった今ですよ、あなた、行政のさ、ライフワークとして、この南口については何としても成功しなくてはならなかった。JR駅のさ、跡地、3億円で買った、塩漬けになってますよね。あれどうするつもりですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

行政として、糸魚川市としての方針というものは、今まだ確定したものはございません。当初は、被災された方の代替地という名目でJRと交渉したということは、私は書物等で確認をしておりますが、今現在はそのような状況でないことは、皆さんと共有、意識は同じかと思えます。中央区の皆様とは、あそこに何が欲しいではなくて、駅に近い便利な場所を、皆さんに暮らしやすくしてもらうためには、あの4,500平米のほぼ更地ですね、あれをどういうふうに使っていったらいいかという、そういう、何が欲しいの前に、こういうことをするためにこういうのがあったらいいねという、そういう順番に考えませんかということで、区長さん、皆さんとお話をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足いたしますが、今JR跡地の塩漬けという言い方をされておりますが、私は決してそう思っておりません。あれは、その用地を確保いたしましたのは、駅北の大火のときに、やはりそこから離れたいというようなちょっと意見がございましたので、そういった方々に対しましても対応が必要だなというような形の中で捉えさせていただきました。そして、ただそれだけじゃなくて、今、駅南の開発の中においても、やはり個人の皆様方の土地だけではなくて、行政も提供できる土地を持っていったほうが、やはり開発の方向に進んでいく、その加速ができるのではないかというふうな意味で、いかようにも活用できる土地だという捉え方の中で買わせていただいたものでございま

すので、私が今言ったように、これからのこの駅、新幹線の駅南側の、やはりこれからの開発なり、また区画整理あたりをしながら、どういう方向に持っていくかというものに活用できるものと捉えておるわけでありませう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

さっき言った駅南開発の一つの拠点のエリアとしてさ、まとまった用地があるから、それはやっぱりJRのほうから何とか市のほうに下ろしてほしい。これは織田副市長と一緒に協力して、お願いしたものであります。基本的にはね、もうあそこら辺をやはりサ高住、いわゆるサービス付き高齢者住宅だとか、また、それを何ていうのかな、民間開発のほうで、あそこを今度、開発させてみせる。そこにコンビニができたり子供のための遊び場、だから、こどもセンターまでは言わないけど、やっぱりそれぞれの年代の皆さんが集えるような場所にしてやればいい。行政がやるんじゃないなくて、行政が金を出すんじゃないなくて、家賃を取ったりなんざで独立採算ができるようにするんですよ。それでなおかつ、中山間地にいる皆さんの中で、来たい方はお呼びする。やっぱりコンパクトシティを推進していかなければ、もう駄目ですよ、中山間地の中で住むと言ったって、除雪費だとか電気代だとか、ガス水道代もあるし、支管工事だつてやっていかなくちやいけないから、それから考えていくと、やはり難しい。だから、さっき五十嵐部長が言ったように、コンパクトシティの一つの拠点としての計画というのは、やはりつくって行ってほしかったなあ。ああでもない、こうでもないとブツブツ、ブツブツ、塩漬けじゃないなんてさ、口だけで言うんじゃないなくて、それが行政でもんじゃないですか。しっかり計画出してほしいと思いますよ。

それから次に、この地域医療をどう守っていくのか。これは渡辺市民部長、お願いしますよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺 忍君登壇〕

○市民部長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

地域医療につきましては、何を差し置いてでも守っていかなければならないものだと思っております。今回の厚生連糸魚川総合病院のことに關しましても、決して糸魚川だけの問題ではなく、全国の地方の病院について、同じような状況に陥っております。

その原因の一つとしては、人件費の高騰であったり、物価高騰であったり、患者数の減少等々が考えられます。単独で1つの市、自治体で、それを守っていくというのはなかなか難しいことだと思っておりますので、そのために今回、県が中心となって、地域医療構想というのを立ち上げております。その中で、それぞれの病院の果たす役割でありますとか、各地域で必要とする医療等々、総合的に考える上で、私としては、やれ県立だ、厚生連だという形ではなく、一つの運営主体を持った中で、医療人材も含めてやりくりをする中で、上越圏全域として一つの構想としてまとめていくことが、地域医療を守る形の一つだというふうに考えておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

そこでね、お聞きしたいんですけど、この地域医療に関して、新潟県の新しい構想、それをよく言いますけどね、新潟県って、糸魚川市に何してくれたんですか。医者1人でも2人でも送ってくれたんですか。うちらが細々と頑張っ、富山県にお願いして、医師を派遣してもらって、ここまでやってきたんでしょ。何で新潟県が新しい医療圏域の中で、診療科だとかそういうものを削ろうとしてるんですか。医者だって、何も運んでこないんだもん。夜間緊急医療の、いろいろ係る経費ぐらい新潟県が出してくれたっていいでしょう。じゃなきゃ、糸魚川を切り捨てる気ですかってことだ。

結局ね、上越の診療所、いわゆる出張所にしていくつもりなのかということです。糸魚川を診療所にするつもりなんですか。ほかの県立があるようなさ、県立病院があるような地域とは違うんですよ。こっちには総合病院は1つしかないんだし、やはりその事情というのをやっぱり考えてもらわなきゃ駄目ですよ。それを新潟県にしっかり言ったんですか、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前段で、ほかの議員の皆様方の地域医療のお答えにも、答えていきましたように、やはり今ここへ来て、人口減少と医師不足、看護師不足の中において、地域医療が非常に危ういところにあるという中で、今取り組んでまいったわけでございまして、そういった今までの県が中心になって考えていく中においては、医療過疎、そしてまた県が及ばない地域があるという形の中で、我々は今、県全体の均衡のある地域医療を守ってほしいという形で、6年前から立ち上がって進めて、申し上げてきたわけでございます。それが、2月6日によろやく県と同じ土俵に入ったわけでございまして、それにはやはり長い歴史の中から、どうしてもなかなか、県としては、なかなか譲れなかった点かもしれません。

しかし、それがよろやく緒に就いたということでございますので、これから、それが進んでいくことと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

そこなんですよね。これから進んでいくのか。これからも続けていけるのか。

このさあ、県の補助金にしろ、9市の補助金にしろさ、一過性のもん、もしくは3年ぐらいのもんじゃないんですか。市長が言うようにさ、医療というものはずっと長く続けていかなくちやいけない。取りあえず3年間は守るって、じゃ、その後はどうなるんですか。私は、それを聞いてるんです。今は、見事に県の補助金を引っ張り出したり、9市をまとめたり、それはリーダーシップは

米田市長ですからね、これは大したもんだと思いますよ。すごいなど、活動も早かったしね、それは、それで、いいところはいいところで認めます。けどね、次の市長さんにその同じまねができますか。私は、そこを聞いてるんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

幸いにして、同じ境遇のこのほかの5市の皆様方と非常に結束がしっかり固まっております。その辺は、私が辞めても引き継いでいけるものと思っております。そして、今本当に情報等でお聞きになっておるように、新潟の中心の新潟市でさえも、そういった医療機関の赤字が、市の赤字が顕著になってきとる。そしてまた、県立病院は当然でしょうし、またほかの機関もそういう状況が起きております。でありますから、これはもう県としても、やはり地域医療構想については、グランドデザインをしっかりと位置づけして、描いていかなくちやいけないと思っております。それまでの間、今ある診療、病院が、倒産してなくなったら大変なことだということです。病院も大変なことなんです、まず医療資源として、医師と看護師がしっかり確保しておかなくちやいけない。次の新しい段階へどういう形でいくかということに引き継いでいくまでの間、やはり継続させてもらわなくちやいけない。言われるように、今想定してるのは3年間かもしれない。でも、もしかしたら間に合わなかったら、もう1年先送りの中で捉えなくちやいけない。その間は、また県もしっかり逃がさないようにやっていかなくちやいけないんだろうと思っております。

そのような気持ちの中で取り組んでいけば、間違いなくつながっていくものと思っております。そういう形で、やはり県も今大変なところに来ておるし、医師不足に対しても非常に力を入れておることによってましたから、多少なりとも上がってきてるわけありますので、その辺は知事がしっかりと理解しておるものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

そこがやっぱり1番懸念するところです。県はやっぱり県立病院を優先するんじゃないかということです。やはり県立病院のボーナスアップをして、厚生連の従業員についてはボーナス、役員は支給されないし、普通のスタッフについてもボーナスのアップはなかったです。じゃあ何が起こるかかって、人手不足でしょう。県立のほうで看護婦や医者、医療スタッフを募集したらどうなりますか。県だって苦しいんでしょう。じゃあ、彼らがどっちを、どっちを救うかですよ。もちろん両方救ってもらわなきゃ困るし、また、新潟県は新潟県、糸魚川には糸魚川なりきの地域的特性があるんですよ。やっぱり富山県の世話がないと、糸魚川の医療というのは立ち行かないんだから。そこはやっぱり県と県との連立をしっかりとっていただかなくちやいけない。

そこでやっぱりね、市長、糸魚川総合病院の公立病院化というのをしっかりと明確にすべきじゃないですか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

新潟県がしっかりと医師確保、看護師確保できれば、富山等のつながりはなくてもいいわけですが、その辺まだ不特定であるわけでございまして、新潟県自身も医師が足りないとしたら、富山との今そういったパイプはつなげていかなくちゃいけないという考え方でおります。

それと、今の組織について公立化はどうかというご指摘でございますが、今の新たな地域医療構想、いろんな考え方ができると思います。要するに、そのエリアの中全部が、一つの経営体になるのか、また、全部県立になるのか、はたまた民間になるのかという、いろんな今、進め方ができるかと思っております。それが明確になったときに、糸魚川としての医療を考えて、一番糸魚川にとっていい組織になっていかなきゃいけないんだろーと思っております。そのときに、ぜひ県が主導型でやってもらいたい。どうしても駄目だとしたら、やっぱり今、議員ご指摘のように、糸魚川市としてというところにあるかもしれません。

だけど、やはりこれはもう県が全体で考えていかなくちゃいけないんで、県がしっかりと、これは構築してもらわなければならないところでは、6市の首長、みんな一致しております。そして今、これは県庁の知事以下、お願いしとるわけじゃなくて、もう県議会にもお願いいたしております。それをようやく県議会もご理解いただいて、我々に対して支援をいただいている状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

ちょっと細かいことをお聞きしますけどね。新潟県は、糸魚川に対してはどのぐらい出してるんですか。また、医者先生はさ、何人、新潟県のほうから派遣されて来てるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

新潟県から糸魚川総合病院のほうに入っている金額というのはほんの僅かの部分で、正確な数字はちょっと捉えておりませんが、一千何百万とかそういったぐらいの金額だったというふうに認識しております。

それと、医師の派遣につきましては、新潟大学のほうから今2人ですかね、糸魚川総合病院のほうに常勤がおいでいただいているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、不確かなんですが、6市で、6市ということは厚生連か、厚生連に対して1億5,000万円ぐらいというような数字も聞いております。まだはっきりという数字ではないんですが、そういうぐらいの形であったと思っております。

それと、我々が医師不足で行ったときに、新潟大学に行きました。そのときに新潟大学といたしましては、医師不足の中において、新たな展開がなかなか難しい。今のあるパイプを、ぜひそのまま生かして使っていただきたい。駄目になったら新潟大学が何とかするという話を、以前、産婦人科の医師を要望に行ったときに、学長からそういう話をいただいたこともあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

だから、そこなんです。一生懸命糸魚川総合病院を残そうと思って、市長は頑張られてるけど、新潟県がその気になってるのかと。昨日も誰か議員さんがね、やっぱりお聞きになられてました。要するに重大性の問題なんだよね。一つしかない糸魚川の病院、新潟県からしたら幾つもあって、しかも県立じゃないんだから、それは1番後回しでいいんじゃないのって。糸魚川が困りますよと言ったら、上越に来ればいいんじゃないのって、やっぱりそうなると思う。これやはり糸魚川は非常に弱いところ。

また、同じことなんだけど、なくなったら困るでしょと言っても、能生地区の人は、うちら別に上越に行くからも問題ないんですという、青海の人に聞くと、やはり大問題ですとかって言うと、うちら朝日に行くからいいんだよって、問題はやっぱり糸魚川旧市内かとかとやっぱり思うんですよ。もちろん全体がやっぱりそうなんだろうけど、うちは、確かに西にも東にも、確かに行ける分岐点がありますけど、やっぱり季節的なものや雪、降雪期や台風なんて考えたら、やっぱり行けるもんでもないし、やっぱり緊急体制なんかも24時間365日やっていってもらわなくてはいけないので、そこはどうしてもやはり問題になってくると思いますよ。

それから、金額に対したってさ、糸魚川市はもう3億円以上も出してるじゃないですか、今回の来年度の予算でもね。プラス今回の支援金ですよ。それだけで糸魚川は、糸魚川総合病院に対してね、それだけの思いがある。これやっぱり何で公立化を急がなくちゃいけないか、なんです、市長。民間病院のまんまにしておくと、民間病院に税金を投入するなら、いつか破綻しますよ。駄目ってなります。今までだって医療機器、緊急補助金だとか購入費補助金だとか、人材確保何とか補助金だとかって言いながら、手を替え品を替え出してきた。経営に対する直接の支援金は出しちゃいけないことになってるんだよ。前にも、それが遅れて姫川病院が潰れちゃったんだけどさ。

だから、あのね、私、税金投入することは反対はしませんから、ちゃんと筋の通るようにしてくださいと言ってる。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、上越圏域の医療構想の状況が明確になってきたから公立化というのも私は視野に入れてもいいなと思うけれども、以前から、以前にもそういう話はあったんですが、何で市立にしなかったかという一つの大きな理由は、やはり医師不足であります。やはり厚生連のネットワークの医師の配置を考えたり、看護師を配置する一つの大きなパイの中でやるのと、一つの市が、私、ほかの市の市立病院の医師の確保、苦勞してるのを見ておるわけでございますので、本当に大変な状況があるわけでありまして、そういったことを考えたときに、ただ単に病院が、ハードなものができればいいかということではなくて、やはりソフトの医師、看護師がやっぱり一番重要なわけでありまして、その確保は、やはり市としてはちょっと厳しいなということで、大きな一つの医療組織に入っていたほうが、少しでもいいんではないかというような形の中で今まで進めてきたわけでございます。今回、これから上越圏域の医療構想の中でどういう組織が糸魚川にとっていいのかと、また、上越圏域の医療構想の中で、どういった全体での枠組みとしての形態は何かいいのかというのをやっぱり論議の中に入れて対応してもらいたいと思っておりますし、その中でいい形を選んでいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

この公立に関してはね、富山県は、とにかく各市町村で市立だとか町立だとかって建ってるでしょう。この公立にすることによって、医者や看護婦が来るんですって。私立だとなかなか危ないんで、先生だとか、そういう看護師さんが来ていただけないんだそうです。

だけど、市長、これもうここでやめますよ、ここでやめるけど、税金を出してもおかしくないシステムというのをつくってください。今のやり方というのは、いわゆる超英断式ですからね。今のところ緊急避難みたいにして、私も文句は言いませんけど、これやっぱりいずれ形としてはすっきりとしていただきたいと思います。

それから、大嶋部長に聞きますけどね、あなた行政改革の推進とは、何をやったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

全体としましては、行政改革推進委員会におきまして、民営化ですとか、あと庁内におきましても、事務の効率化等を進めてきております。

また、先ほどから話が出ておりますが、公共施設の適正管理ということで、今人口減少が進んでる中で、人口が多いときの施設の配置になっておりますので、それをいかに統合ですとかをしていくか、また、廃止に向けても取り組んでいくかというところが、今後進めていくべきところであるというふうに思っております。

いずれにいたしましても、行政だけで旗を振っててもなかなか進まない問題でありますので、市民の皆さんをはじめ、議論をしながら引き続き進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

何も行政改革をさ、庁内にも改革していくのに市民の意見を一つ一つ聞いていく必要がない。それだけ遅くなるでしょう。

大嶋部長、私、3部長制については大分言ってきましたよね。部長制は、まだ続けるつもりですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

市の組織につきましては、我々職員は、長の補助機関として存在しているわけでありまして、それで任命を受けて、それぞれの職責を全うしているところでございます。今現在、糸魚川市におけるその行政の在り方としまして、この部長制ということを取っております。

この部長制につきましては、部内はもとより、部を超えた全庁的な観点でのマネジメントということであります。市の政策への決定ですとか、あと、部の中の総括、あと対外的な対応等ありますけれども、そういうものを含めまして、現在の市の運営に必要な部署・職責として与えられた仕事を全うしていくというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

じゃ、大嶋部長に聞きますけどね、部長、任期1年の部長に何ができるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

個人としての任期は、確かに1年であったかと思えます。

ただ、前任の部長、その前の部長からも引き継いだ仕事もございまして、それらも含めて、また庁内の仕事のやり方等も変わってきますので、それらも含めたということで、できる限り職責を全うしようということで務めてきたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

大嶋さん、あなたは行政改革をやるやると言っていてさ、さっきから言ってるの、できない理由ばかり述べてる。全然変わらん行政組織を改革しなくちゃいけないって言ってるだけの話、何もしてないじゃないですか。

でもね、今ほど話も聞いた、やっぱり五十嵐さんも渡辺さんも大嶋さんもさ、私はすばらしい職員だと思ってるんで、できたら課長のまんま、やり残した仕事、やってる仕事をそのまま完結してほしかった。何もお飾りの部長なんか、たった1年ですってところへ上げてこなくなつて。さらにこれを継続するつもりなんですか。来年3部長、全部引退するんですよ、来年度は。また、この課長の中から、いいの3人上げるんですか。ただでさえ人がいないと言ってるのにさ、また実務から離れて、その管理職みたいなのこ入るんですか。

でさ、糸魚川の部長制おかしいでしょう。県だとかその辺の会社の部長制じゃないです。部長さんが全部係長の話聞いて、必要な予算だとか行事計画だとか、そういう社内計画みたいなのを立てて、こんだけの予算くださいとやってるとこじゃないでしょう。全部予算は、各課の課長に任せとおきながら、これができますか、あれどうですかって、ただ相談役という名で見守ってるだけじゃないですか。違いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

確かに今の糸魚川市の部におきましては、部に充てられた、例えば予算の配分とかそういうものはございません。各課が積み上げてきたものを、各部で査定をしまして、全体の予算査定に臨んでいるところであります。

ただ、その部長制につきましてもいろんなやり方があるというふうに思っておりますんで、その市の組織に合った部長制、より機能できるような組織である必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

行政マンとしてさ、3万7,800かそこらのところで部長制取ってるというのは恥ずかしくくないですか。部長制取らんきゃ行政できないんですか。前の課長制で十分じゃないですか。そのほうが機動力もあるし、動ける。市長とも直接指示を仰げるし、話すこともできる。検索機能もある。部長というさ、一つのフィルターを通さなくなつて大丈夫、できるじゃないですか。

それから井川副市長、ちょっとお聞きしますけど、あなたは、来年度、残留するんですか。それとも市長と共に引退するんですか、進退をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

私の任期は、本年の8月29日までです。選挙後に新しい市長が登庁されるわけですが、その方が、その任期まで務めることを望めばそういった形になりますし、そうではない新しい人に替

えたいということであれば、その時点で身を引く覚悟はございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

別に、副市長としていいか悪いかと言ってんじゃないだよ。市長でしょう、副市長でしょう、3部長でしょう、これみんな辞めるんだよ。いなくなってしまう。じゃ、新しい市長ができたとしたって、この行政、糸魚川丸というものをさ、引っ張っていく航海士みたいなのが、みんな辞めてっちゃったじゃない。どうやって運営していくのかというのは、もう憂いてしようがないんですよ。その辺、市長はどう思いますか。もう辞めてくんだから、でもね、こういう人事をしちゃ駄目だって何回も言ってる。3人の部長が1年限りで辞めていくような組織をつくっては駄目だって、俺、しつこく言いましたよね。そのたんびにうるさいもん扱いされて、何ていいましょかね、やられましたけど。これが私の言ってる危機感ですよ。危機感のなさ、そのときにならなきゃ分からない。私は何年も前から、これを言い当ててたんですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

部長制の考え方は、古畑議員のご指摘は、以前から私は聞いております。しかし、私といたしましては、やはり1年であってもしっかりと部長の職務は務めていただいたとっておりますし、また、やはり各課においても、全て副市長と相談なんかできる状態ではないときもあります。やはり部長が取りまとめたり、そういった相談に乗ったりまとめるところが、私は絶対、市民関係、そしてまた建設産業関係、そして総務関係、そういった我々行政の中で、いろいろと判断するとき、私は相談、市政会議なんかにおいても意見をいただいております。やはり、私が判断する中において、そういった職員と相談できる組織というのは、私は必要ではあります。そして、対外的にも課長は職務に専念でき、いろんな面で対外的に行動できるわけでございますし、私の代理も務めていただいております。非常にそういったことを考えたときに、私は必要だということをお願いして設置をさせてもらってるわけでございます。私としては、必要だったと捉えてますし、その職務に邁進してもらったと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

市長が必要だと感じたから、だけどね、部長の給料だけでさ、3人で3,300万円もかかるんですよ。どうしても欲しかったら、課長との兼任でいいじゃん。いいじゃんじゃないわ、いいですよ。あのね、市長、そんなぜいたく言ってる場合じゃないんですよ、糸魚川の財政というのはさ。先のことを考えて金使ってくださいよ。人件費は真水ですよ。その件については、また予算委員会

等でもね、総務文教常任委員会の中でもやっていきたいと思えますけどね。

次、ちょっと1点、権現荘の件でお聞きしたいんですけど、経営移譲は、なぜ遅れたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

移譲が遅れた、譲与が遅れた理由ということでよろしいでしょうか。当初予定していたものの中から、いろいろと議会のご意見もいただきまして、慎重な審議が必要だということから、審議に審議を重ねました。また、その後に補助金の返還等の事務があり、そういったものの中で調整が遅れていることから、譲渡が遅れたものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

あれも結構大論議だったんだけどね、そういうことを全部オーケーにしてから提案してくりゃどうなんですかね。議案が通ってから、まだ結局、何だ譲与もしてないとかなんとかって、営業できませんと、結局、市がやりましたって、そりゃおかしいじゃないですか。無計画行政じゃない。契約にちゃんと記された工事契約というのは、ちゃんと履行されたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

譲与先が行う予定の工事ということでよろしいでしょうか。そちらのほうにつきましては、現在、正式な日程で申し上げますと、本来、今月の頭から入る予定だったんですが、例の大雪に遭いまして、資材の搬入が遅れました。現在、権現荘、まだ2メートル超える雪がありますので、搬入口をようやく整備することができましたので、今週のうちに入れるというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

この件は、ちょっと予算審査特別委員会のほうで、ちょっと細かく聞きたいと思えますね。

それからね、この市内中学校いじめ事件及び部活動の移行についてなんですけど、これやはりさ、最終的には教育委員会としては、今回のいじめをどのようにして収束するつもりですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

どのような形で収束かということでございます。今、追加調査のほうを実施しているところでございます。3月の末までには、その調査報告が上がってくるところでございます。まずは、それをしっかり指摘等、どのような形にあるのかというのをしっかり見る中で、例えば教育委員会に落ち度があるとか、そういう指摘をいただくようなことであれば、私、この間の委員会でも述べたかと思うんですが、何らかの形で責任等は取っていく必要があるというふうに思っております。

また、保護者の皆様から、その調査結果が納得していただけるかどうか、そこもあろうかと思うんですが、今回の調査は2回目でございます。それ以上の調査というのは、かなり厳しいものというふうに思っております。ですので、まずは、その調査結果をしっかりと見届けて、今後の対応をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

一旦その前にちょっと確認しておきますけどね、教育長、この教育行政の最高責任者というのは、委員会の中で答えていただきました。この場でもう一回答えてください。ちょっと確認しておきたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

前回の総務文教常任委員会でも、私のほうの立場から責任の所在というふうな部分で説明させていただきました。教育行政の第一義的な責任者は、教育長の私自身であります。総合的な最終責任者は、市長の米田市長でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

それね、ちゃんと確認しておかないとね、市長が、最高責任者は、俺じゃないよって言いますんでね。市長、今の教育長の答弁でよろしいですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

そのとおり、結構と思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

市長がようやく納得してくれたようなんでね、それでよろしいでしょう。

山本さんね、先ほど調査の結果、3月31日、いわゆる末日の日、いわゆる調査結果等が間に合うようになってました。

ただ、その分析だとか内容の確認というものをやってるうちに市長の任期が来てしまった。新市長になりましたという場合の責任の取り方は、どうするんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

調査結果につきましては、3月31日よりもうちょっと早くなるかと思っております。本来であれば、その調査結果につきましては、議会等にご報告しなければならないというふうに思っておりますが、今その間に議会といいますか3月の定例会が終われば、特に議会に報告するタイミングというのがなくなってきました。なので、その辺につきましては、今また今後、委員会等でどのような形でご報告するのかというのは、ちょっと検討していかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

そこがね、非常に難しいんですよ。この任期直前の、いわゆる改選、選挙が4月にあるでしょう。だけど、この3月にこの議会というのは終了するわけなんだよ。その後、議会から議会の間の、間だよ、閉会中っていうんだけど、その間に閉会中の調査の申出がありますんで、これを許しますかどうかですかって諮るんだよ。選挙があるけど閉会中も委員会やるよとやった場合にさ、報告するところがないんだよ。報告する議会に、報告する議員もいない。通常やっぱり改選期から議長がちゃんと決まって、委員会の所属が決まるまでの間、空白期間になるわけ。それでその間も、その間に、じゃ、改選期前に委員会を開けばいいじゃないかといっても、結局、委員会を開いたって報告することができないんで、結局やることができないんです。ちょっとね、もう長くしゃべっちゃったけどね、結局そういうことも含めて、議会に対して責任は、調査結果がこうです。したがって、責任がこうなんですけどどうでしょうかという機会がないんですけど、それ、教育長どうします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

ちょうど年度末の組織の入替え、選挙というふうな部分のところがスケジュールの中に入ってる

ということを鑑みたときに、やはり非常に厳しいなというふうに思います。取りあえず調査結果の報告を受けたときに、その内容がどういう内容なのかということに応じて、その後の動き方、日程的なことも含めて関係者で協議をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

市長、よろしいですね、結局さ、新しい議会が出てから、責任問題を遡って米田市長のほうに行くか、それとも政治は継続なんで、新市長がその責任を負わなくちゃいけないかって話になってくる。どう思います、市長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

行政というのは継続だという形もあるわけですが、しかし、起きたときの、やはりそのときの職務で判断していくことが私は正しいと思っております。

しかしながら、そういった今任期が切れたり、新任が入ったりというような形の中においては、少しややこしいかもしれません。そうなってくると、私といたしましては、もう自分で判断できない部分があるわけですので、そういった責任の委員会みたいなものをつくっていただいて、そこでお決めいただいて、それで、私はそれを受ける形でいいのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

さすがですね。自分の市長のときに起こした、また発生した件についての重大事故や事態についてのその責任は自分が負うと今宣言したわけですよ。もちろんその責任があるかないかについては、調査委員会の結果を待たなくちゃならない。それを調査委員会の結果を審査する議会がないんだよ。だから、最低でも6月議会まで待たなくちゃいけないってことになる。なったばかりの委員長さんですとか議員さんでそれが審査できるかどうか謎ですけどね。もう時間がないんで、これはもういじめだけで。

子育ての件はあれですよ、総務文教常任委員会か、また、予算審査特別委員会でやりたいと思えますけどね。

それから、一人一人のいじめに対して寄り添っていくとかって言いましたよね。次長も教育長も、スクールバスの中のいじめが起こったときに、親御さんから直接涙の訴えを聞きましたよね。その後、何をしましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

スクールバスの中にドライブレコーダー、中の様子も観察できるように、ドライブレコーダーのほうも設置しておりますし、また、そういったのデータも、後でも確認できるように保存できるような形で今対応しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

皆さん何のことか分かんないと思うんですけどね。小学校の4年生がね、スクールバスに乗って通ってるわけ。だけど、そのバスの中で中学生からいじめられた。それが長い間続いてて、何か月も続いてきてる。その間に飯も食えずに、食べても嘔吐してしまう。結局、お医者さんからは、ストレスによる適応障害というふうに判断された。市に相談をしたんだけど、テレビカメラをそこに設置をしてくれた。親御さんは、さらに大人もそこにつけて、ちょっと監視してくださいという依頼だった。これは何でしなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

今、確かに人もというお話もいただきました。これは学校の職員も今非常に忙しいですし、多忙ということで、人のほうも不足しているという状況の中で、確かに人もというご要望もいただきましたが、私どもといたしましては、まずはしっかりドライブレコーダー等を設置して、中の様子をしっかりと見れるような形にして、非常に鮮明に画像も出ておりますので、声も聞こえます。そういったところで、まずは、そこからの対応ということで今対応させていただいたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

結局ね、成長盛りのさ、子供がね、毎日通うスクールバスの中でいじめられてだよ、きついストレスを感じてしまって、家では物を食べても結局吐いてしまう。健康的なものだって何だって、しかもだ、そのお姉さんもやめなさいって言ったのがきっかけでいじめられるようになってるんだよ。でだ、そこのお母さんだって、お姉ちゃんだって、弟だって心配になってくる。

しかし、教育委員会に相談しても何もしてくれないという。お母さんも、これ心配ですよ。それでお母さんが、大人を配置してくれということは今、山本次長が言ったようにしてやってくれな

かった。新潟県教育委員会のほうに連絡をして、新潟県教育委員会からの指導をお願いしますという。新潟県教育委員会は、被害者に寄り添う対応してほしいと。教育長との面談の機会を設けるなどしてほしいということで、新潟県教育委員会は、糸魚川市教育委員会のほうへ連絡したんです。新潟県教育委員会の電話を受けたのが、山下主事でした。保護者の方が電話をして、電話いったでしようかという保護者の問合せに、いや、聞いてないですねと答えたのは、小川参事だ。保護者さんからはさ、スクールバスの大人の同乗してるだけで、別に教師じゃなくたっていいですよ。シルバーの方でも結構でしょうし、ボランティアの方でも結構だ。見張られるという感じの中にいたんじゃ、子供たち窮屈でしょうから、ごくごく普通の顔して座ってらっしゃるだけでもいい。

でもだ、新潟県教育委員会は何をしている、新潟県教育委員会は。これ、しかもいじめ事件で、変な話で、私が入って話があった後の、またいじめでしょ、それに対する対応でしょう。何であなた方は、もっと一人一人に寄り添って、事が大きくならないようにしてくれないんですか。このお母さんは、子供がやっぱり病院に通うようになったんで、やっぱり重大事態としての申告をしたいって、申請したいと言ってる。これ、どうするんですか、教育委員会。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

山本教育次長。〔教育次長 山本喜八郎君登壇〕

○教育次長（山本喜八郎君）

お答えいたします。

そういった保護者の重大事態ということ調べていただきたいということで、今、専門委員会を立ち上げて、調査を行うというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

先般の総務文教常任委員会の際に、私も情報をお聞きしました。その後、市長と私のほうで、車内への防犯カメラの設置、それから大人の同乗について指示したところなんですけど、現状、今かかってないってことで、そのような報告を今受けた次第です。その部分については、しっかり解消するように、保護者の意向に沿って、対応するようにさせてもらいたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。

○16番（古畑浩一君）

これは、もうはっきり言って、保護者の方もやっぱり精神的にストレスでき、やっぱりかなり傷ついてらっしゃいますんで、優しく速やかにいろいろと対応していただきたい。責任問題は、さっき言ったように調査委員会の結果が出た後、教育長も市長も甘んじて受けると言ってますんでね、それなりに、こっちも待とうと思います。

それから、子育て複合支援センターのこのチラシ、特にそれをトップにして出したチラシなんですけどね、本当に何年かぶりか、何十年ぶりかにさ、中学校のときの恩師から、女の先生から電話が来ましてね、卒業以来、初めて褒められましたけどね。古畑君よく書いた、よく言ってくれたねと、みんな本当にそうやって切なく思ってるよ。結局、必要なものなのか、本当によく考えてからやってほしい、私は反対だと。

それから、教育委員会についてのいじめの件につきましても、昔から隠蔽体質は……。

○議長（保坂 悟君）

古畑議員、時間が来ました。

○16番（古畑浩一君）

じゃ、この件につきましても、後で、また委員会の中でやりたいと思います。どうも失礼いたしました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

これもちまして、一般質問を終結いたします。

### 日程第3．議案第30号

○議長（保坂 悟君）

日程第3、議案第30号、損害賠償額の決定及び和解についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

ご説明申し上げます。

議案第30号は、損害賠償額の決定及び和解についてでありまして、教職員の起こした自動車事故のうち、人身損害に係るものについて、その損害賠償額を決定し、相手方と和解するため、議会の議決をお願いいたしたいものであります。

以上であります。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○議長（保坂 悟君）

ただいまの説明に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております本案については、総務文教常任委員会に付託いたします。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会といたします。